

進展するスマートひかりタウン熊本

プロジェクト始動

情報通信技術（ICT）を生かして地域を暮らしやすく魅力的にする取り組みが熊本県で活発化している。その柱となっているのが熊本県、熊本市、NTT西日本の3者が中心となって進める「スマートひかりタウン熊本プロジェクト」。NTT西日本として初の試みで安全・安心や少子高齢社会に対応した取り組みとして全国的に注目されている。



スマートひかりスクウェアでの提案の様子

プロジェクトの土台となっているのは2012年2月に県、市、NTT西日本が結んだ「ICTの活用による地域活性化等に関する包括連携協定」だ。13年2月にはプロジェクト1周年を記念した「ICTを活用したまちづくりサミット」が開かれ、県内外の自治体、大学、経済界から440人を集めた。プロジェクトの背景には県と市がICT活用に積極的な取り組みを進めている自治体がある。それぞれの自治体が進めている取り組みにNTT西日本が培ってきたICTを活用したまちづくり支援を組み合わせて、住民参加で事業を進める。目標は、地域活性化や住民サービス向上を図り、生活者にも訪問者にも魅力あふれ、暮らしやすさと幸せの実感ができるようにすることだ。

NTT西日本は、ICTを活用してまちづくりを進める。住民はパソコンやスマートフォン（多機能携帯電話）で見られる。また地図データは防災計画の見直しや災害図上訓練、危険箇所の改修などに利用できる。

NTT西日本は、ICTを活用してまちづくりを進める。住民はパソコンやスマートフォン（多機能携帯電話）で見られる。また地図データは防災計画の見直しや災害図上訓練、危険箇所の改修などに利用できる。

成功事例を全国に



「スマートひかりタウン熊本」プロジェクトがスタートしてから、多くの事業が展開されています。県と市とのコンセンサスがスタートしてから、多

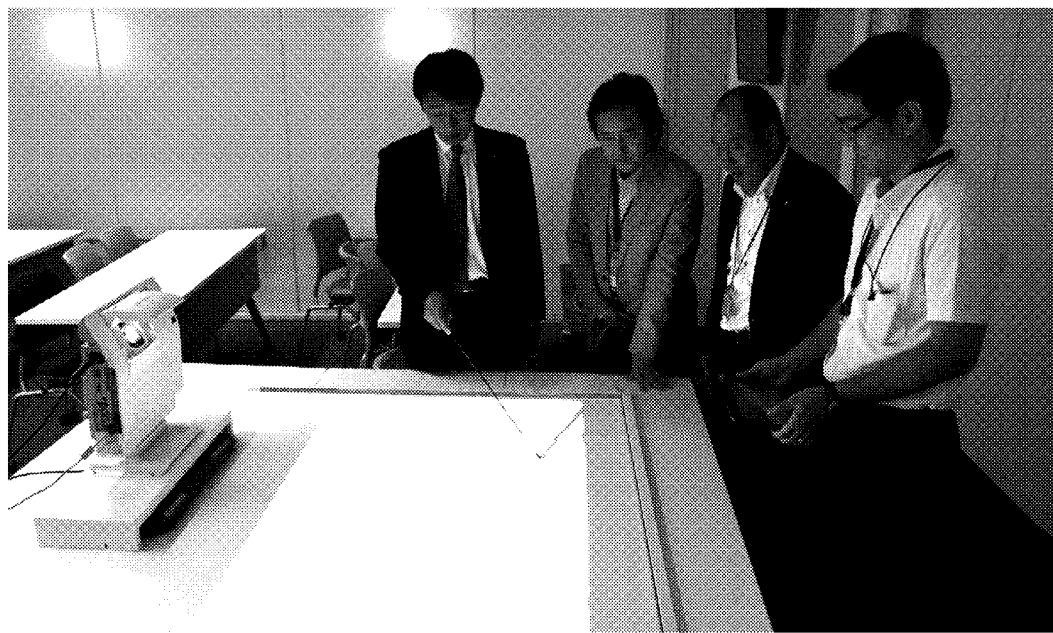
NTT西日本理事熊本支店長 北村美樹浩氏

「熊本市には地方都市が抱える問題の縮図があると言え。だからこそプロジェクトが全国の自治体から注目され、視察が相次いでいる。特に12年に九州北部豪雨があつてハザードマップへの関心が高まった。高齢化対策も待ったなし

「熊本市には地方都市が抱える問題の縮図があると言え。だからこそプロジェクトが全国の自治体から注目され、視察が相次いでいる。特に12年に九州北部豪雨があつてハザードマップへの関心が高まった。高齢化対策も待ったなし

「熊本市には地方都市が抱える問題の縮図があると言え。だからこそプロジェクトが全国の自治体から注目され、視察が相次いでいる。特に12年に九州北部豪雨があつてハザードマップへの関心が高まった。高齢化対策も待ったなし

住民参加でハザードマップを作成



ハザードマップを作成する電子ボード

「スマートひかりスクウェア」のオフィスゾーン。住民はパソコンやスマートフォン（多機能携帯電話）で見られる。また地図データは防災計画の見直しや災害図上訓練、危険箇所の改修などに利用できる。

高齢社会に対応

ICTは高齢社会にも貢献する。13年2月から3月にかけては高齢者向け健康づくりと見守り、生活支援サービスを検証した。主な内容は血圧、脈拍、体重など健康に関するデータ蓄積と組み合わせる「運動講習会やテレビの電源状態に基づ



スマートひかりスクウェアのオフィスゾーン

「スマートひかりスクウェア」のオフィスゾーン。住民はパソコンやスマートフォン（多機能携帯電話）で見られる。また地図データは防災計画の見直しや災害図上訓練、危険箇所の改修などに利用できる。

「スマートひかりスクウェア」のオフィスゾーン。住民はパソコンやスマートフォン（多機能携帯電話）で見られる。また地図データは防災計画の見直しや災害図上訓練、危険箇所の改修などに利用できる。



“光”ひろがる。ひびきあう。

みんなでつながり合えば、
未来はどんどん楽しくなる。
NTT西日本と一緒に、
もっともっと、ワクワクする未来へ。

